

【千葉テレビ放送賞】

おだなか じゅんいち
小田中 準一

父母の背中

母さんを亡くしてから、すっかり元気がなくなってしまった父さん。
ひとり暮らしが心配で時々会いに行くけれど、
その度に「母さんのことなんか忘れてしまったよ」とポツリとつぶやく。
父さんと母さんはオシドリのように仲の良い夫婦だった。
定年後は大好きな温泉旅行に2人でよく行っていたよね。
そして、2人はとても働き者だった。
子供たちが小さい時から、貧しい家計を支えるために共働きをして私たちを育ててくれた。
説教などされたことはなかったけれど、
両親の働く背中がいつも私たちに語りかけ、それが教科書だった。
ところで、時々母さんの墓参りに行く度に新しい花が供えてある。
それ、父さんだろう。
本当は、今も母さんは父さんの心の中に生きているんだね。
今度、母さんの写真を連れて、いっしょに温泉旅行に行こうよ。
親子水入らずで、母さんとの思い出を辿りながらね。
温泉に浸かって元気を取り戻し、父さんの笑顔が見られることを願っています。
子育ての恩はまだまだ返しきれないから、父さん、どうか長生きして下さい。

(千葉県/66歳/男性/自営業)

入賞者の作品への大切な想い…

亡き父母への感謝の気持ちから、書きました。